

中学・高等学校現場にはどのような英語資格試験が 効果的か — その 1 — — 実用英語技能検定試験と TOEIC、その他資格試験との 比較、今後における課題 —

山西 敏博*1

Research on Effective English Examinations for Junior and Senior High School Students

YAMANISHI Toshihiro

This study researches what kind of English examinations are suitable for junior and senior high school students. The STEP Tests have been said to be essential for them, whereas TOEIC, TOEIC Bridge and other tests have been popular generally. This research shows how effective these tests are for English learners at these schools.

KEYWORDS : English examination, STEP Test, TOEIC

1. 研究の目的

実用英語技能検定試験（英検）はその設立以来 40 数年に渡り学校現場に定着し、数々の級を設立して、中高校生は言うに及ばず、小学生や大学生、一般社会人にも英語学力の伸長度を測る指針として、これまでに数多くの受験生を抱えてきた我が国では最大級の英語検定試験である。一方、それに対して、近年企業からの要請として「使える英語」、すなわちコミュニケーション能力を重視した新たな英語検定試験の柱として TOEIC (Test Of English for International Communication) および TOEIC Bridge が脚光を浴び、その受験熱は高まりを見せる傾向にある。

そのような中で、本論では以下の 2 点に対し

て分析を行い、提言をしていくことを目的とする。

1. 英検と TOEIC, TOEIC Bridge、その他資格試験における中等教育現場に対する有益性
2. 英検の優位性：英検とセンター試験との関連性、TOEIC との比較

これらに関して、外部試験として定評のある 2 つの英語試験である、「英検」と「TOEIC (Bridge)」を中心として、大学入試センター試験英語科目との獲得得点などの相関性と比較検討しながら、今後の指標としていきたい。

*1 一般科(Dept. of General Education), E-mail: yama0225@oyama-ct.ac.jp

2. 英検と TOEIC Bridge、その他資格試験における中等教育現場に対する有益性

今日、英語における資格試験は英検を始めとして数多くのものが現存する。ここで比較対象とする「その他資格試験」とは、「TOEIC, 工業英検」を取り上げる。

(1) TOEIC

TOEIC は過去 20 年以上にわたり、英語コミュニケーション能力を評価するテストとして利用されてきている試験である。TOEIC テストは、合格ではなく 10 点から 990 点までのスコアで評価されている。また、このテストは、世界約 120 ヶ国で実施されているが、その大半は日本と韓国で活用されている。さらに和文英訳、英文和訳などの技術ではなく、身近な内容からビジネスまで幅広くどれだけ英語でコミュニケーションできるかということを測ることを目的としている(国際ビジネスコミュニケーション協会, 2011)。

TOEIC の受験者数は以下の図 1 のようになっている。

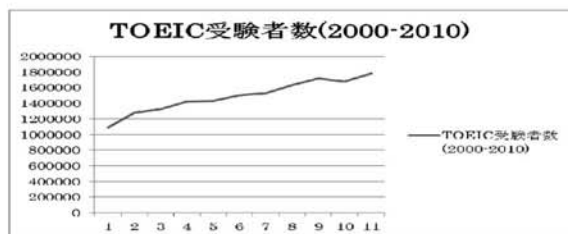


図 1 TOEIC 受験者数

(国際コミュニケーション協会, 2011)

このように、ここ 11 年間で、TOEIC の受験者数は年々上昇の一途をたどっている。これは企業による英語コミュニケーションの能力を図ることが大いに推奨されてきているので、その要請はどんどんと大きくなっているという事が言える。また、TOEIC の出題形式は以下の通りになっている。

表 1 TOEIC 問題例

LISTENING

Part 1 - 4 : 写真を見てのリスニング、会話形式・一人の話し手による説明の問題が出題される

READING

Part 5・6 : 文法・語法形式

Part 7 : 表を見ての読み取り (Skimming, Scanning 形式)

(国際コミュニケーション協会, 2011)

上記のように、Listening セクションが 100 問で 45 分、Reading セクションが同様に 100 問で 75 分、計 200 問を 120 分で解く形式になっている。

(2) TOEIC Bridge

TOEIC テストの受験者層が広がりを見せたとともに、TOEIC よりも「易しくて」、「日常的で身近な」、「時間の短い」初級学習者向けのテストを求める声がかまってきた(国際ビジネスコミュニケーション協会, 2011)。そこで、TOEIC プログラムを開発したテスト開発公共機関 Educational Testing Service(ETS)は、関連会社である The Chauncey Group International(CGI)を設立し、TOEIC の前段階として基礎的な英語コミュニケーション能力を評価する世界の共通テストとなる TOEIC Bridge (以下 Bridge) が開発された。このテストは TOEIC の特徴を備えつつ、初・中級レベルの英語能力測定に照準が合わさっている。評価結果は合格・不合格ではなく、Listening (25 分・50 問)、Reading (35 分・50 問) がそれぞれ 90 点満点、Total Score が 180 点満点になっており、5 分野 3 段階の Sub Score で評価されるという基準となっている(国際ビジネスコミュニケーション協会, 2011)。

Bridge においては、あくまでも TOEIC 試験を易しめに設定したものである。受験者数の推移や TOEIC とのスコアの対比は以下の通りになっている。

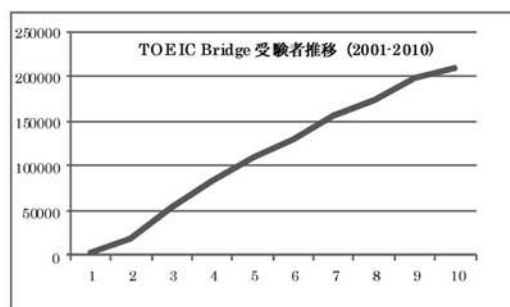


図 2 TOEIC Bridge 受験者数推移

(国際ビジネスコミュニケーション協会, 2011)

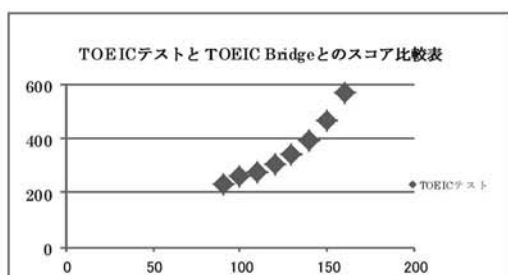


図3 TOEICテストとTOEIC Bridge とのスコア比較表
(国際ビジネスコミュニケーション協会, 2011)

図2のように受験者はここ10年で2,500人から20.9万人と8倍近くに上昇はしている。それは大学に進学した後や企業が求めている資格試験の英語数値はTOEICのスコアを要求することが多いために、高等学校などもそれに追随していることができる。

また、図3のようにTOEICとBridgeとの点数を比較したものも提示されている。縦軸はTOEICスコア(990点満点)で、横軸がBridgeのスコア(180点満点)となっている。一方、ここには注意事項として、2000年11月から2005年9月までの15,569名を対象に、Bridgeのスコアからそれに対応するTOEICスコアを「予測」したものであるとしており、「サンプルが変わると、結果の数値が変わる」ともされている。よって、データとしては信憑性に欠けるものとなっている。

さらに、Bridgeの問題は以下のような設問形式になっている(The Chauncey Group International, 2011)。

表2 TOEIC Bridge 問題例

LISTENING

Part 1・3: 写真を見ての描写問題、応答問題、会話形式の問題が出題される

READING

Part 4: 文法・語彙問題

Part 5: 読解問題 — 表を見ての読み取り (Skimming, Scanning 形式)

(国際ビジネスコミュニケーション協会, 2011)

これは TOEFL・PBT (Test of English as a Foreign Language: Paper-Based Test) においても、その内容が非常に類似した形になっている。

TOEFL がない形は Part 1 の写真を見てのリスニング問題と Part 5 の表を見ての読み取りである。確かに実社会において必要な技能としては、外国に行きって案内板や時刻表等を見ながらそこに記されている注意書きを読むとか、空港などで出発時刻や乗り場が急きょ変更になった時などのアナウンスを聞くといった場面が想定される事から、TOEIC 形式が好まれるのかもしれない(これは以下に記載する3.の内容と関連性を持つ)。しかしながら、あくまでも現段階における学校現場においては「読み・書き」が中心の英語教育となっており、加えて出題される語彙数の問題から、Bridge は使用単語に制限を設けてはいない一方で、公立中学校現場での学習語彙数は2003年度4月からは900語程度(うち必須単語は100語)(金谷, 2002)であり、2008年度からは1,200語に増大されてはいるものの、おのずと Bridge は語彙数から言っても、中学生にはまだ向かない試験であると思われる。更に文法・語法問題の出題形式においても、その出題される文脈や内容、そして選択されるべき語や語彙についても、一見すると日本人になじみのある出題のされ方とは意を異にしているようにも見受けられる。これは「工業英検」と同様にも言えることである。

(3) TOEIC と TOEIC Bridge との比較

ここでは TOEIC と TOEIC Bridge との比較を取り上げる。

TOEIC の受験に関しては、TOEIC Bridge 150 点以上を取得した者で、かつ英語能力に関してさらに詳しく情報を得たい者に受験を勧めている(国際ビジネスコミュニケーション協会, 2011)。なぜならば、それだけ語彙や語法レベルについて TOEIC と Bridge との差があるからである。

加えて、Bridge は基礎的な英語能力を測定する指標として設計されていることから、学習初期段階のレベルチェックとしての活用や、TOEIC テストを受験しながらも、まだ十分に能力を発揮できていないと感じる人々の動機づけとしての活用を促している。しかしながら、Bridge の受験対象者としては「日常的なシーンで、コミュニケーション英語能力を身につけたい方。基礎から英語学習を始めたい方。」という表記のみがあり、測定範囲も「初級から中級レベル」という非常に大雑把な記され方で、こういった年齢や学齢の者が対象かが明確にはされていない。加えて語彙レベル

もどのようなものが出題されるのかもはっきりとはしていない。

表3 TOEIC と TOEIC Bridge との比較 (国際ビジネスコミュニケーション協会, 2011)

	TOEIC Bridge	TOEIC テスト
理念	英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通のテスト	
対象者	・日常的なシーンで、コミュニケーション英語能力を身につけたい方。 ・基礎から英語学習を始めたい方。	・身近なシーンからビジネスまで幅広い場面でコミュニケーション英語能力を身につけたい方。 ・就職活動やキャリアアップなど社会で自分の英語力をアピールしたい方。
測定範囲	初級から中級レベル	初級英語学習者からネイティブスピーカー（英語を母国語とする人）に近いレベルまで
出題内容	日常的で身近な内容	身近な内容からビジネスまで幅広く
形式	マークシートによる一斉客観テスト	
評価基準	リスニングスコア：10～90点（2点刻み） リーディングスコア：10～90点（2点刻み） トータルスコア：20～180点 サブスコア：5分野3段階評価	リスニングスコア：5～495点（5点刻み） リーディングスコア：5～495点（5点刻み） トータルスコア：10～990点
問題構成	リスニング：50問（25分間） リーディング：50問（35分間） トータル：100問（60分間）	リスニング：100問（45分間） リーディング：100問（75分間） トータル：200問（120分間）
結果	Official Score Certificate（公式認定証）	

（４） 工業英検

工業英検とは、わが国の工業英語の重要性を広く普及・啓発し、その実力を客観的に正しく評価をすることを目的に 1981 年より実施している文部科学省後援の検定試験であり、また、社団法人全国工業高等学校長協会、国立高等専門学校協会ならびに財団法人専修学校教育振興会など 14 団体の後援を得て実施している試験である（日本工業英語協会,2011）。

表4 審査基準

級	程度
4 級	工業英語の基礎知識を有しているレベル
3 級	工業英語の応用知識を有しているレベル
2 級	工業英語全般の知識を有しているレベル
1 級	工業英語の専門家としての実務能力を有しているレベルで、実務上、工業英語を指導できる

（工業英語協会, 2011）

この試験は、「4 級」においては I「和訳」、III「英文完成」という形式を取ってはいるが、出題されている文であっても中学生での学習領域をはるかに越えている語彙が出題されている。

表5 工業英検 出題例

I 次の(a)から(g)のそれぞれの和訳から最も適切なものを1つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。＜各 10 点（70 点）＞

(a) This formula is used to calculate the area of a triangle.

1. この公式は、三角の土地の角度を計算するのに用いられる。
2. この公式は、土地の三角測量を計算するのに用いられる。
3. この公式は、三角錐の体積を計算するのに用いられる。
4. この公式は、三角形の面積を計算するのに用いられる。

(b) A LAN must be constructed to exchange data between computers.

1. コンピュータと LAN の構成には、データを変換する必要がある。
2. コンピュータの間に接続された LAN で、データを変換する。
3. コンピュータ間のデータ交換には、LAN を構築する必要がある。
4. データ交換するためのコンピュータは、LAN の接続が必要である。

III 次の(a)から(e)に続く英文として、最も適当なものを下の1から5より選び、その番号を解答欄に記入しなさい。なお、1から5は1回しか使えません。 <各3点(15点)>

- (a) The printer is used for printing the data
- (b) Digestion starts in your mouth
- (c) The *infrared* sensor detects
- (d) The word radar comes
- (e) A CD-ROM is a disk

1. that you see on the screen.
2. persons approaching the entrance door.
3. when food is chewed.
4. on which a large amount of data is stored.
5. from the initial letters of radio **detection and ranging**. (工業英語協会, 2011)

同様に、「3級」レベルとなると、さほど難しくはない単語を空所補充として入れる段階においても、文脈自体に日常的ななじみがなく、かつ専門的な場合には、易しい内容であるはずの文であっても文の背景が難しく、かつ複雑であったりすることから全体としては難しい文に見えてしまい、高校生を含む受験生が選択肢を選ぶ際には困難を期するであろうと思われる。

表6 工業英検 出題例

III 次の各英文の()に入れるのに最も適切な語を下の1から10より選び、その番号を解答欄に記入しなさい。<各6点(30点)>

(a) The function of a *thermostat* is to () a constant temperature over a period of time.
Answer (2)

- | | | |
|----------------|--------------|-------------|
| 1. excludes | 2. maintain | 3. complete |
| 4. constructed | 5. developed | |
| 6. allows | 7. by | 8. without |
| 9. results | 10. science | |

IV 次の各英文を完成させるために、それぞれの1から4より最も適切な語を選び、その番号を解答欄に記入しなさい。<各5点(15点)>

Answer (1)

(3) *Modulation* is the process of changing the frequency or *amplitude* of radio waves in order to send a (1. signal 2. sign 3. number 4. signature).

(工業英語協会, 2011)

表5・6より、これらで出題されている語彙レベルは、英検で言えばイタリック体では「準1級(大学中級相当)」のレベルに相当し、太字であっても「2級(高校卒業相当)」に該当することから、通常の英語単位数が普通科高校よりも少ない工業高校においては、これらの語彙力を有して工業英検の問題にあたるには至難の業であると思われる。加えて、前述したように、たとえ単語の意味がわかっていたとしても、文脈の背景にある「工業系の知識の内容」が周知のものであるかないかによって、その設問自体が解きやすいかそうでないかに分かれてしまい、結果としてそれらから英語能力を測る際に信頼性や妥当性があるかどうかといった方向にまで広がっていつてしまうことが懸念される。

また、昨今の JABEE (Japan Accreditation Board for Engineering Education : 日本技術者教育認定制度) 認定の要件の一つとして、多くの高専では「TOEIC」における一定点数を学生が取得するように義務付けている (JABEE, 2012)。このことから、近年は高専生およびその学校における英語指導者の関心も「工業英検」から「TOEIC」

に移行しており、そういった点からも工業英検の需要度はさほど高くはないように思われる。

(5) 英検

英検は 1963 年創設以来過去 50 年近くもの長きにわたり学校現場に根付いてきた検定試験であり、1 級(大学上級程度：約 10,000 語～15,000 語レベル)・2 級(高校卒業程度：約 5,100 語レベル)と 3 級(中学卒業程度：約 2,100 語レベル)までの創設期を経て、66 年には 4 級(中学中級程度：約 1,300 語レベル)、87 年には準 1 級(大学中級程度：約 7,500 語レベル)、5 級(中学初級レベル：約 600 語レベル)、そして 94 年には準 2 級(高校中級程度：約 3,600 語レベル)とその幅を着実に広げ、中学・高等学校の現場において英語学習の指針となる役割を果たしてきた(日本英語検定協会,2011)。合格基準は 1 次試験においては 1・準 1 級は 70%前後、2～5 級は 60%前後、2 次試験にあたる面接はいずれの級も 60%前後となっている。合格通知も発行されており、これには分野別得点などのデータと正解が添付されている。その中で、受験者はどの分野が得意、または不得意であったか、また、受験者全体の中で自分がどの位置にいるのかを確認することができ、単に合格を知らせる通知としてだけでなく、英語学習に役立つ資料を提供している(日本英語検定協会,2011)。

表 7 英検審査基準と試験内容

級・ レベル	程度
5 級 中学初級程度 約 600 語 レベル	初歩的な英語を理解し、簡単な英語を聞くこと、話すことができる。
4 級 中学中級程度 約 1,300 語 レベル	基礎的な英語を理解し、平易な英語を聞くこと、話すことができる。
3 級 中学卒業程度 約 2,100 語 レベル	基本的な英語を理解し、特に口頭で表現できる。

準 2 級 高校中級程度 約 3,600 語 レベル	日常生活に必要な平易な英語を理解し、特に口頭で表現できる。
2 級 高校卒業程度 約 5,100 語 レベル	日常生活や職場に必要な英語を理解し、特に口頭で表現できる。
準 1 級 大学中級程度 約 7,500 語 レベル	日常生活や社会生活に必要な英語を理解し、特に口頭で表現できる
1 級 大学上級程度 約 10,000 語～ 15,000 語 レベル	広く社会生活に必要な英語を十分に理解し、自分の意思を表現できる

(日本英語検定協会,2011)

また、現在、英検には「Can-do リスト」というものが存在している。これは英検では、2003 年 5 月から約 3 年の歳月をかけ、延べ 20,000 人を超える 1 級から 5 級の合格者(合格直後)に対し、数回に渡る大規模アンケート調査を実施し、その結果をまとめた指標である。個々に示された各項目は、調査に回答した合格者が自己評価して「自分はこの項目ができる自信がある」と考えたものを、統計的な手法を使って分析したものである(日本英語検定協会, 2011)。

このリストには、「英検合格者の実際の英語使用に対する自信の度合い」という副題をつけ、「何かができるようになった人は、テストで何点取れる」というように、例えば、「社会性の高い幅広い分野の文章を理解することができ」たり(Reading)、「社会性の高い話題についてまとまりのある文章を書くことができる」(Writing)者が、「英検 1 級」を取得することができる、といった指標になるのである。

表8 各級・分野別 まとめ表現

	読む	聞く	話す	書く
1級	社会性の高い幅広い分野の文章を理解することができる。	社会性の高い幅広い内容を理解することができる。	社会性の高い幅広い話題についてやりとりをすることができる。	社会性の高い話題についてまとまりのある文章を書くことができる。
準1級	社会性の高い分野の文章を理解することができる。	社会性の高い内容を理解することができる。	社会性の高い話題について、説明したり、自分の意見を述べたりすることができる。	日常生活の話題や社会性のある話題についてまとまりのある文章を書くことができる。
2級	まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から必要な情報を得ることができる。	日常生活での情報・説明を開きとったり、まとまりのある内容を理解することができる。	日常生活での出来事について説明したり、用件を伝えたりすることができる。	日常生活での話題についてある程度まとまりのある文章を書くことができる。
準2級	簡単な説明文を理解したり、図や表から情報を得ることができる。	日常生活での話題や簡単な説明・指示を理解することができる。	日常生活で簡単な用を足したり、興味・関心のあることについて自分の考えを述べることができる。	興味・関心のあることについて簡単な文章を書くことができる。
3級	簡単な物語や身近なことに関する文章を理解することができる。	ゆっくり話されれば、身近なことに関する話や指示を理解することができる。	身近なことについて簡単なやりとりをしたり、自分のことについて述べることができる。	自分のことについて簡単な文章を書くことができる。

4級	簡単な文章や表示・掲示を理解することができる。	簡単な文や指示を理解することができる。	簡単な文を使って話したり、質問をすることができる。	簡単な文やメモを書くことができる。
5級	アルファベットや符号がわかり、初歩的な語句や文を理解することができる。	初歩的な語句や定型表現を理解することができる。	初歩的な語句や定型表現を使うことができる。	アルファベット・符号や初歩的な単語を書くことができる。

(日本英語検定協会, 2011)

このように英検は受験する級がきめ細かく分かれており、更には「Can-do リスト」も用意されておることから、生徒の学習伸長度に応じてそれぞれの級を採用しやすいという点が学校現場における採用のしやすさになっているものと思われる。前述のように英検は5級が中学1年修了相当、4級は中学2年修了相当、3級が中学修了相当と、英語の初学者にあたる中学生、及び早期英語教育を受けている小学生や幼稚園児達も受験がしやすい制度になっている。

とりわけ、英検受験合格者の最年少は公文教材で学習していた3歳児が英検5級を取得したという実例(1997,2003年度)がある。同様に2011年度には3歳児が4級に合格した実績もある(日本英語検定協会,2011)。97年次のその子供は4歳になった時点で英検4級を取得し、その後6歳時に3級をも取得した(くもん出版,1997)。同様に、帰国子女なども彼らの英語習得(学習)の目安として幼少期から数多く英検を受験するなど、英検の伝統と実績は従来不動のものとなっている。中学校現場においてはもちろんの事、5級から3級までの受験者の6割以上は中学生である(図4-5:青色)。3級になると高校生(緑色)も3割近くを数えてきてはいるが、それでも出題レベルが「中学修了程度」という目安から、中学校での学習進度状況を鑑みながら学校現場でも中学教師の薦めを受けての受験が多いと思われる。

表9 2011 年度 第1回検定 学生別受験状況

学校	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	合計
	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者
	合格者	合格者	合格者	合格者	合格者	合格者	合格者	合格者
小学生	55	577	1,676	2,346	5,205	13,042	23,631	46,532
	6	125	709	1,197	2,924	7,888	19,666	32,515
中学生	405	1,546	6,895	40,796	128,110	94,597	45,635	317,984
	64	418	1,657	14,099	70,547	71,283	39,508	197,576
高校生	801	6,311	73,678	101,056	55,593	8,330	1,962	247,731
	126	773	16,804	34,253	23,297	4,008	1,374	80,635
高専生	6	39	363	536	234	32	18	1,228
	1	4	68	209	118	12	12	424
短大生	7	123	1,165	544	320	6	5	2,170
	0	10	313	206	130	5	2	666
大学生	1,087	4,462	6,677	1,533	419	62	37	14,277
	112	745	2,441	678	204	47	36	4,263
専修・各種	38	397	2,026	1,909	1,142	141	80	5,733
	1	46	453	696	560	74	37	1,867
その他学生	291	875	1,543	1,761	1,788	1,056	880	8,194
	41	172	479	608	839	672	703	3,514
合計	2,690	14,330	94,023	150,481	192,811	117,266	72,248	643,849
	351	2,293	22,924	51,946	98,619	83,989	61,338	321,460

(日本英語検定協会, 2011)

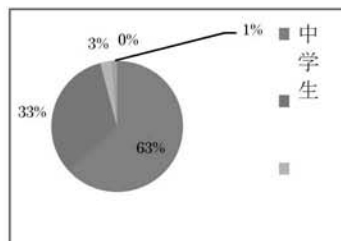


図4 英検5級(中学校内容履修相当)における、中学生受験者(青色)の割合

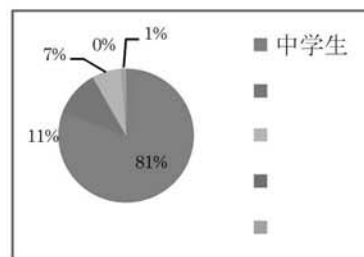
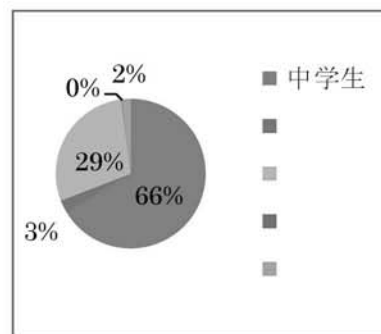


図5 英検4級(中学校内容履修相当)における、中学生受験者(青色)の割合

図6 英検3級(中学校内容履修相当)における、中学生受験者(青色)の割合
(すべて 英検協会, 2011)

さらに、準2級、2級となると、図7、8のような結果になる。

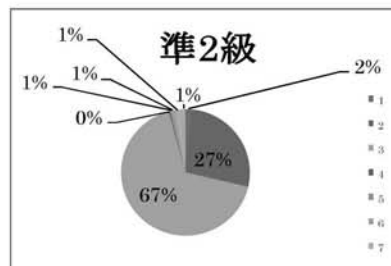


図7 英検準2級(高等学校内容履修相当)における、高校生受験者(緑色)の割合

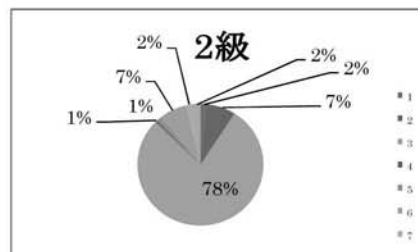
図8 英検2級(高等学校内容履修相当)における、高校生受験者(緑色)の割合
(英検協会, 2011)

図7, 8とも赤部分が「中学生」、緑部分が「高校生」であるが、準2級は「高校中級程度」であるものの中学生の受験率は4分の1を越えてはいるが、どちらも高校生が過半数を占めており、中でも2級の「高校修了程度」においては大学生(橙色)と中学生の7%から大きくその数を引き離し、高校生は4分の3以上を占めている。このことから、高校生には英検準2級・2級の受験が定着しているという事ができる。

一方、教師自身が英語能力試験を過去に受けた事例として、以下のデータがある。

表 10

1. 英語能力試験を過去に受けたことがあるか。(N=1,278)					
ある	61.3%	ない	34.1%	無回答	4.6%
2. 英語能力試験受験結果					
(1)英検	総計 88%	1級 10%	準1級 27%	2級 51%	
(2)TOEIC	6%	900 以上 1%	810 以上 2%	730 以上 3%	
(3) TOEFL	6%	600 以上 2%	580 以上 1%	550 以上 3%	

(石田他, 2002)

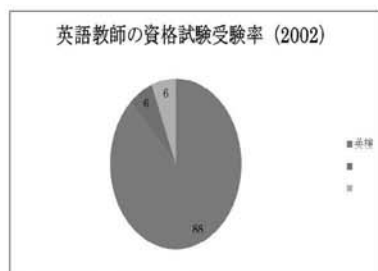


図9 全国現職英語教員アンケート調査結果

図9および表10に示されているように、中等教育現場で務める英語教師の中で英語能力試験を過去に受けた経験のある者はおよそ60%、そして図8のようにその中で約90%（データ集計分中の53.9%）は英検を受験してきた経験があることがわかる。一方、TOEIC及びTOEFLはアンケートに回答してきた全教師中の3.7%にしかすぎない。このことから中等教育現場教師の英検に対する認知度の高さや、自分自身が学生時代に受験してきた流れ、そしてその効果が高かったことから、次代を担う者にもその効果を味わわせてあげたい

という意識、更には高校受験へ向けての中学段階での習得状況を図る上での道標としての活用など様々な効果がもたらすゆえんであると思われる。

加えて近年ではその伝統と実績から最近では一般の人たちの受験もその数を増している。全国的に見ても1次試験受験者数に関しては、2003年度から2011年度において、3級は8,256名から19,703名、準2級は12,330名から16,137名となっている（日本英語検定協会, 2003・2011）。

このように早期英語学習者や帰国子女など日本国内での学校において英語教育を受けてはいない者、また社会人の生涯学習の場においても、英検はその修得状況の目安となっており、学校現場はもとより修学時前（Pre-School）の段階においても大変効果的であろうと思われる。

以上のことから、少なくとも中等教育、とりわけ前期中等教育に当たる中学校段階および後期中等教育における高等学校段階において、英検はTOEIC BridgeやTOEFL、および工業英検よりも受験率の高さや信憑性において、圧倒的な優位性を誇っているものと思われる。

参考文献

- 1) JABEE (2012) 4. 技術者教育プログラムの審査項目_日本技術者教育認定制度とは
<http://www.jabee.org/OpenHomePage/q&a0204-0509.htm#4>
- 2) The Chauncey Group International (2011) TOEIC Bridge サンプルテスト
<http://www.toeic.or.jp/bridge/about/tests/sample01.html>
- 3) The Chauncey Group International (2011)
- 4) 石田雅近他(2002) 2. 英語力に関して 1) 英語能力試験を受けたことがあるか? その結果は? 第3章 英語力と自己英語研修 全国現職英語教員アンケート調査結果 pp. 20 東京: 英語教員研修研究会
- 5) くもん出版(1997) CAPABLE
- 6) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2011) VI PROFICIENCY SCALE TOEIC テスト 2011 DATA & ANALYSIS p. 13 東京: (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会
- 7) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2011) _ TOEIC テストとは
<http://www.toeic.or.jp/toeic/about/what>
東京: (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会

- 8) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2011)
TOEIC Sample Tests
- 9) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2011)
「テスト問題の構成」『テスト構成について』 TOEIC®
<http://www.toeic.or.jp/bridge/about/tests/>
- 10) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2011)
「開発の背景：TOEIC Bridge とは」『TOEIC®公式
サイト』 <http://www.toeic.or.jp/about/what>
TOEIC Bridge 東京：(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会
- 11) (財) 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2011)
I TOEIC テスト受験者数推移
TOEIC テスト 2010 DATA&ANALYSIS
<http://www.toeic.or.jp/toeic/pdf/data/DAA2010.pdf>
東京：(財) 国際ビジネスコミュニケーション協会
TOEIC 運営委員会
- 12) (財) 日本英語検定協会 (2011) 出題の基本方針と評価 pp. 3-5 英検ガイド 2011 東京：(財) 日本英語検定協会
- 13) (財) 日本英語検定協会 (2003) 2002 年度 英検受験状況 pp. 13 英検ガイド 2003 東京：(財) 日本英語検定協会
- 14) (財) 日本英語検定協会 (2011) 英検の沿革 pp. 18 英検ガイド 2011 東京：(財) 日本英語検定協会
- 15) (財) 日本英語検定協会 (2011) 審査基準と試験内容 pp. 7 英検ガイド 2011 東京：(財) 日本英語検定協会
- 16) (財) 日本英語検定協会 (2011) 「Can-do リストとは」『Can-do リスト』 日本英語検定協会 H P
<http://www.eiken.or.jp/about/cando/cando.html>
(2011/9/21 アクセス)
- 17) 社団法人 日本工業英語協会 (2011) 工業英語検定試験サンプル問題
<http://jstc.jp/koeiken/bassui.html>
- 18) 社団法人 日本工業英語協会 (2011) 「工業英語とは？」日本工業英語協会 H P
<http://jstc.jp/koeiken/koeiken.html>
(2011/9/21 アクセス)

【受理年月日 2012年 9月28日】